

事務事業名	7069 高齢者敬老事業													
担当組織	福祉部				長寿介護課				担当	高齢者支援担当				
組織コード	R2	17	10	00	会計・款・項・目・大事業・中事業	R2	01	03	01	04	03	01	記入日	令和 2年 6月19日
	R1	17	10	00		R1	01	03	01	04	03	01		

1. 事務事業の概要

総合振興計画上の位置づけ											実施計画候補		
基本目標	02	誰もが健康でいきいきと生活できるまち									○ 対象		
分野	04	高齢者福祉									● 対象外		
施策	21	高齢者の社会参加の促進											
事業期間	平成17年度～令和2年度												
根拠法令 通達等					関連計画 施政方針		戸田市高齢者福祉計画・介護保険事業計画						
事業区分	○ 法定受託事務 ○ 自治事務のうち義務的なもの ● 自治事務のうち任意のもの												
対象	記念品の贈呈者：70歳以上の市民 敬老祝金の贈呈者：77歳、88歳、99歳、100歳の市民 敬老のつどいの対象者：70歳以上の市民												
事業目的	高齢者の長寿を祝い、併せて敬老の意を表するとともに、明日への活力としていただく。												
事業内容	70歳以上の方に記念品を贈呈し、対象年齢の方に祝金を贈呈する。また、70歳以上の方を対象に文化会館にて「敬老のつどい」を開催（令和2年度は開催しないこととする）。演芸やアトラクションを催す。												
実施主体	■ 市による単独直営 ■ 委託 (□ 3セク・財団 ■ 企業 □ 市民・NPO) ■ 協働・協力 (ボランティア)												

2. 実施結果

事業の 予算・ 実績	事業内容		令和元年度 執行額(千円)	令和2年度 予算額(千円)	令和3年度 計画額(千円)	令和4年度 計画額(千円)	令和5年度 計画額(千円)	
	事業費		60,108	64,552	72,030	67,225	68,605	
	財源 内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		起債	0	0	0	0	0	
		その他	0	0	0	0	0	
	一般財源		60,108	64,552	72,030	67,225	68,605	
	人件費		4,519.68	4,519.68	4,519.68	4,519.68	4,519.68	
	投入 人員	常勤職員	0.66人	0.66人	0.66人	0.66人	0.66人	
		非常勤職員	0.2人	0.2人	0.2人	0.2人	0.2人	
事業費+人件費		64,628	69,072	76,550	71,745	73,125		
目標 達成 状況	指標名		単位	説明・算定式		H30目標 H30実績	R1目標 R1実績	R2目標 R2実績
	活動 ①	入場券配布件数	人	70歳以上の入場券配布 数	1,000	700	0	
					692	737	-	
	成果 ①	参加者数	人	70歳以上の参加者数	850	600	0	
					589	669	-	
	成果 ②							
目標達成 状況 の分析		A：活動・成果ともに達成した。 <判断理由> 「敬老のつどい」について、入場券配布枚数・参加者数ともに前年度を上回り、数多くの方に参加いただいた。 なお、令和2年度は会場が修繕のため利用できないことから、実施を見送る。						

3. 評価結果

施策への貢献度	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	29年度	30年度	1年度	B：施策の目標達成に貢献している。
	B	B	B	<p><判断理由></p> <p>高齢者の長寿をお祝いし、敬意を表することは、住み続けたいと思うまちづくりを進める上で大切なことであり、また、イベント参加や祝金等の贈呈を楽しみにしている高齢者の生きがいとして目標達成に貢献している。</p>
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	29年度	30年度	1年度	A：経費の精査が十分になされている。
	A	A	A	<p><判断理由></p> <p>送迎バス、招待状を廃止し、経費削減を図った。</p>
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	29年度	30年度	1年度	B：事業手法は適正な内容である。
	B	B	B	<p><判断理由></p> <p>市職員、協力団体等の協力で、事業は円滑に行われている。</p>
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	29年度	30年度	1年度	B：受益・負担は適正な範囲である。
	B	B	B	<p><判断理由></p> <p>敬老のお祝いという事業の性質上、受益の適正化という判断は難しいが、概ね適正な範囲であるといえる。</p>

4. 令和元年度中に実施した見直し内容

見直し内容	特になし
見直しの効果	

5. 今後の方針

事業の方向性	<input checked="" type="radio"/> 1 現状で継続 <input type="radio"/> 2 拡大して継続 <input type="radio"/> 3 縮小して継続 <input type="radio"/> 4 他事業と統合 <input type="radio"/> 5 休止 <input type="radio"/> 6 その他見直し <input type="radio"/> 令和3年度で終了 <input type="radio"/> 令和2年度で終了 <input type="radio"/> 令和元年度で終了
	<p><判断理由></p> <ul style="list-style-type: none"> 敬老祝品事業については、介護保険給付費等が年々増加しており、歳出の見直しが求められていることから、事業の在り方を検討する。 敬老祝金事業については、平成27年度に10段階から4段階に変更した経緯があるが、今後さらなる高齢者数の増加が見込まれることから、状況を見ながら、贈呈金額の検討を行う。 敬老会については、文化会館の収容人数や送迎バス乗降時の安全性を考慮し、平成29年度から名称を「敬老のつどい」とし、送迎バスの廃止や先着参加申込み方式の導入を行い実施した。今後も事業内容を検証し見直しを継続する。
今後の取組方針	<p>見直しを実施した敬老会事業は、見直し後の状況等を見据えながら、さらに今後の方針を検討していく。令和元年度までは同じ形式で実施して、再度見直しを行う予定である。</p> <p>敬老祝金については、平成27年度贈呈分から贈呈年齢階層と贈呈額を変更したため、暫くは現状維持としたい。</p>

事務事業名	7074 シルバー人材センター支援事業													
担当組織	福祉部				長寿介護課				担当	高齢者支援担当				
組織コード	R2	17	10	00	会計・款・項・目・大事業・中事業	R2	01	03	01	04	04	01	記入日	令和 2年 6月22日
	R1	17	10	00		R1	01	03	01	04	04	01		

1. 事務事業の概要

総合振興計画上の位置づけ		実施計画候補
基本目標	02 誰もが健康でいきいきと生活できるまち	● 対象 ○ 対象外
分野	04 高齢者福祉	
施策	21 高齢者の社会参加の促進	
事業期間	平成10年度～令和2年度	
根拠法令 通達等	戸田市シルバー人材センター補助金交付要綱	戸田市高齢者福祉計画・介護保険事業計画
事業区分	○ 法定受託事務 ○ 自治事務のうち義務的なもの ● 自治事務のうち任意のもの	
対象	概ね60歳以上で、自分の持てる技術等を地域社会に役立てようとしている市民	
事業目的	高齢者が働くことを通じて健康維持や社会参加による生きがいづくりを進めることによって、高齢化社会に活力を生み出す。	
事業内容	シルバー人材センター運営資金の助成等	
実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市による単独直営 <input type="checkbox"/> 委託 (<input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 市民・NPO) <input type="checkbox"/> 協働・協力 ()	

2. 実施結果

事業の 予算・ 実績	事業内容		令和元年度 執行額(千円)	令和2年度 予算額(千円)	令和3年度 計画額(千円)	令和4年度 計画額(千円)	令和5年度 計画額(千円)	
	事業費		22,458	25,754	23,255	25,754	25,754	
	財源 内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		起債	0	0	0	0	0	
		その他	0	0	0	0	0	
		一般財源	22,458	25,754	23,255	25,754	25,754	
	人件費		684.8	684.8	684.8	684.8	684.8	
	投入 人員	常勤職員	0.1人	0.1人	0.1人	0.1人	0.1人	
		非常勤職員	0人	0人	0人	0人	0人	
事業費+人件費		23,143	26,439	23,940	26,439	26,439		
目標 達成 状況	指標名		単位	説明・算定式		H30目標 H30実績	R1目標 R1実績	R2目標 R2実績
	活動 ①	会員数	人	会員数	580	650	700	
					695	754	-	
	成果 ①	作業受託件数	件	作業受託件数	1,780	1,800	1,820	
					1,959	1,909	-	
	成果 ②							
目標達成 状況 の分析	<p>A：活動・成果ともに達成した。</p> <p><判断理由> 会員数については、積極的な広報活動の結果、約10%増加した。また、営業努力により、作業受託件数は増加し、平成27年度より開始した派遣業務を強化することで、配分金額が増加し目標は達成できた。</p>							

3. 評価結果

施策への貢献度	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	29年度	30年度	1年度	A：施策の目標達成に大いに貢献している。
	A	A	A	<判断理由> 働くことを通して、健康維持や社会参加による生きがいを求める高齢者も多く、こうした高齢者のニーズに応じることができる事業であり、目標達成に貢献している。
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	29年度	30年度	1年度	A：経費の精査が十分になされている。
	A	A	A	<判断理由> 高齢者の生きがいとしての就労創出事業であり、施策の目的に合致していることから、シルバー人材センター運営補助として、人件費及び事務管理費等を支援することについては、適正である。
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	29年度	30年度	1年度	A：事業手法は工夫され、非常に効率的・効果的である。
	A	A	A	<判断理由> 高齢者の生きがいとしての就労創出事業の運営に対して、運営費を補助支援する方法は効率的ではあるが、平成24年4月1日から公益社団法人格を取得した現在、さらなる自主的な運営の推進を図っていくことが必要である。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	29年度	30年度	1年度	B：受益・負担は適正な範囲である。
	B	B	B	<判断理由> 補助事業については、今後の事業状況により、ある程度の目標達成がなされた段階で見直すことも視野にいれておくことが必要である。

4. 令和元年度中に実施した見直し内容

見直し内容	請負事業及び平成27年5月より開始したシルバー派遣事業について、新規契約の開拓に努めた結果、個人宅や物流業などの新規契約先確保が図られた。
見直しの効果	

5. 今後の方針

事業の方向性	<input checked="" type="radio"/> 1現状で継続 <input type="radio"/> 2拡大して継続 <input type="radio"/> 3縮小して継続 <input type="radio"/> 4他事業と統合 <input type="radio"/> 5休止 <input type="radio"/> 6その他見直し <input type="radio"/> 令和3年度で終了 <input type="radio"/> 令和2年度で終了 <input type="radio"/> 令和元年度で終了
	<判断理由> 元気な高齢者の生きがいのための就労の創出に加え、高齢者の収入を伸ばすための就労の創出としても今後期待される事業であるため、会員数の増加と作業受託件数の増加を続けられるよう、今後も支援していく。
今後の取組方針	高齢者が働くことを通じて健康維持や社会参加による生きがいづくりができる事業である。今後においては、団塊の世代が高齢期を迎えることや、女性会員による家事仕事へのニーズが高まっていることを踏まえ、会員数や作業受託件数の増加を目指し、市としては広報紙や窓口における啓発等の周知活動をさらに推進していく。

事務事業名	7076 老人クラブ活動事業													
担当組織	福祉部					長寿介護課					担当	高齢者支援担当		
組織コード	R2	17	10	00	会計・款・項・目・大事業・中事業	R2	01	03	01	04	05	01	記入日	令和 2年 6月22日
	R1	17	10	00		R1	01	03	01	04	05	01		

1. 事務事業の概要

総合振興計画上の位置づけ											実施計画候補		
基本目標	02	誰もが健康でいきいきと生活できるまち									○ 対象		
分野	04	高齢者福祉									● 対象外		
施策	21	高齢者の社会参加の促進											
事業期間	昭和40年度～令和2年度												
根拠法令 通達等	老人福祉法 戸田市老人クラブ補助金交付要綱					関連計画 施政方針		戸田市高齢者福祉計画・介護保険事業計画					
事業区分	○ 法定受託事務 ○ 自治事務のうち義務的なもの ● 自治事務のうち任意のもの												
対象	戸田市老人クラブ連合会												
事業目的	戸田市老人クラブ連合会及び同連合会を構成する単位老人クラブへの支援を通じて、高齢者の主体的活動及び社会参加の促進を図る。												
事業内容	戸田市老人クラブ連合会の活動や資金を援助する。												
実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市による単独直営 <input type="checkbox"/> 委託 (<input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 市民・NPO) <input type="checkbox"/> 協働・協力 ()												

2. 実施結果

事業内容	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	執行額(千円)	予算額(千円)	計画額(千円)	計画額(千円)	計画額(千円)
老人クラブ活動資金の補助					
事業費	5,824	6,981	6,849	7,270	7,419
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	546	546	546	546
	起債	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0
	一般財源	5,278	6,435	6,303	6,724
人件費	4,793.6	4,793.6	4,793.6	4,793.6	4,793.6
投入人員	常勤職員	0.7人	0.7人	0.7人	0.7人
	非常勤職員	0.08人	0.08人	0.08人	0.08人
事業費+人件費	10,618	11,775	11,643	12,064	12,213

指標名	単位	説明・算定式	H30目標	R1目標	R2目標
			H30実績	R1実績	R2実績
活動① 補助対象クラブ数	クラブ	補助金の交付対象クラブ数	33	35	36
活動②			35	36	—
成果① TODA元気体操の開催教室数	箇所	TODA元気体操の教室数	5	6	7
成果②			5	6	—

目標達成状況の分析	A：活動・成果ともに達成した。 <判断理由> 連合会を構成する単位老人クラブの数は、昨年度より1クラブ増加し、高齢者の社会参加の促進が図られた。 また、老人クラブが主体となったTODA元気体操の教室が増加しており、介護予防に向けた取組みの強化が進んでいる。
-----------	---

3. 評価結果

施策への貢献度	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	29年度	30年度	1年度	B：施策の目標達成に貢献している。
	B	B	B	<判断理由> 住み続けたいまちづくりを推進するためには、高齢者の生きがいがづくり、社会参加の促進が必要である。
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	29年度	30年度	1年度	B：経費は適正な範囲である。
	B	B	B	<判断理由> 補助金については、要綱により、補助対象及び水準を明確にしている。また、各単位老人クラブ、老人クラブ連合会の収支決算書において、現在の補助は適正な範囲である。
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	29年度	30年度	1年度	B：事業手法は適正な内容である。
	B	B	B	<判断理由> 単位老人クラブ及び老人クラブ連合会の運営は、各クラブの自主・自立を基本に運営・支援をしている。今後は、自主・自立の活動を明確にするためにも、現在市が実施している当該団体の事務局について、自主・自立の活動、外部委託化を検討していくことが必要である。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	29年度	30年度	1年度	B：受益・負担は適正な範囲である。
	B	B	B	<判断理由> 各老人クラブの活動費は、市、社会福祉協議会からの補助金と当該クラブの会費で賄われている。

4. 令和元年度中に実施した見直し内容

見直し内容	
見直しの効果	

5. 今後の方針

事業の方向性	<input checked="" type="radio"/> 1 現状で継続 <input type="radio"/> 2 拡大して継続 <input type="radio"/> 3 縮小して継続 <input type="radio"/> 4 他事業と統合 <input type="radio"/> 5 休止 <input type="radio"/> 6 その他見直し <input type="radio"/> 令和3年度で終了 <input type="radio"/> 令和2年度で終了 <input type="radio"/> 令和元年度で終了
	<判断理由> 高齢者が元気でいきいきと生活し、地域活動を積極的に展開するために補助事業は継続する必要があると思われる。 令和元年度より、「シルバースポーツ大会事業」が統合された。
今後の取組方針	老人クラブの自主性、自立性を高めるため、事務局を市の外部に置き、運営・活動が行えるよう、運営手法の見直しについて検討していくことが課題である。 なお、例として、シルバー人材センターや社会福祉協議会への移行について検討していきたい。 令和元年度より、「シルバースポーツ大会事業」が統合された。